

大事にされるということ

今月も清水地区のみなさんが、幼稚園に来てくださいました。

12月15日(水)にはクリスマス会が行われました。子どもたちが、「あわてんぼうのサンタクロース」を歌っていると、今年もサンタクロースがちゃんと来てくれました。子どもたちは大喜びです。そして「サンタクロースは忙しいから」と、大きな袋の中のプレゼントを渡すと、サッと帰っていきました。子どもたちには内緒ですが、健全育成推進会の二文字屋さんです。今年も去年と同じようにヤクルトを2本ずつ持って来てくれました。

次の日には、山岸農園から子どもたちみんなに、リンゴのプレゼントが届きました。真っ赤なリンゴが2つ、透明な袋に入れています。9月にぶどう狩りをさせてもらった山岸さんです。担任の先生からリンゴをもらおうと、山岸さんの家の方を向いて、「山岸さん、ありがとう。」と大きな声でお礼を言っている子もいます。

また今週、20日(月)には、交通安全母の会のみなさんが交通安全教室を開いてくださいました。年に3回来て、『私は必ず止まります』の合い言葉を繰り返し教えてくださいました。その教えが子どもたちの体にしみこんでいるのでしょうか、今年も誰も事故にあうことなく、元気に幼稚園に通うことができました。このような丁寧な指導のおかげで事故を未然に防ぐことができているのだと思います。交通安全母の会のみなさんからは反射材でできたストラップと、お菓子をいただきました。

そして、昨日21日(火)は、大内商店の大内直さんに教えてもらい、お正月の門松を作りました。篠竹や松や梅の枝、ゆずり葉などの材料は全て、大内さんが揃えて持って来てくださいました。先日の餅つきも、お世話になりました。そのときも臼や杵を持ってきて、おいしいお餅をついてくださいました。大内さんのご協力がなければ、このような活動はできません。

このように地域の方々とのかかわりの中で、みなさんのあたたかな「まなざし」に包まれることで、子どもたちは「生きているっていいな」「人はいいものだな」という感覚を体で覚えていきます。そして、これから先、何か困難なことにぶつかったときに、「こんなに大事にしてもらったんだから、頑張ろう。」と心のどこかで思うかもしれません。

子どもたちの「生きる力」は、このような人とのかかわりの中で育まれていくのだと思います。

